

<p><ひとことメッセージ> クリスマスカンパへのご協力ありがとうございました。ミンダナオの子どもたちのほかに、一部は中越地震及びスマトラ沖地震・津波被災者への義援金としても使わせていただきました。被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。</p>	 <p>2005年1月25日発行</p>	<p>NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS) 227-0033 横浜市青葉区鶴志町 516-11 TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933 E-mail: hands-ty@r07.itscom.net http://www.jca.apc.org/~hands/ 郵便振替口座 00210-5-72693 (加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会</p>
---	---	---

守る？開発する？ —「先祖伝来の土地」をめぐる選択—

2004年11月、先住民族女性の自立を支援する現地NGOのLayagから、当会奨学生レフ（NDMU農学部3年生）が、期末休暇で村に帰ったまま戻ってこないという連絡を受けました。

レフはレイクセブ町西部のネッド村出身のマノボ民族の学生です。卒業したら村に戻る予定でしたが、コーヒー農園の開発が進む村では、「先祖伝来の土地」使用権を譲り渡す住民と、開発に抵抗する住民間の争いが激しくなり、唯一教育を受けたレフにとりあえず戻ってきて欲しいという抵抗派からの強い要請があったようです。

住民の組織化を応援し、環境に配慮した傾斜地農法・アグロフォレストリを指導する PFP から、先祖伝来の土地保証（CADC）を受けた村々に関わるメールが増えました。バナナやパイナップルなどの大農場が主催する説明会に参加して、魅力的な当座の契約金目当てに、単一栽培を選択する住民急増中とのことです。

12月中旬に、PFPと協力してアグロフォレストリ事業（YOKE助成）実施中のカンダン村を訪ねた時も、周辺の村ではその誘いに応じるものが多いという話を聞きました。契約すると苗木・肥料・農具・収穫までの生活費（現金）が会社から支給され、収穫後に利子を加算した金額と農業資材費を差し引いた金額を受け取ります。CMBの試算では、実質収入は従来のコーンと根菜類栽培の方が、パイナップル栽培より多いそうです。しかも、傾斜地での単一栽培が長期にわたると、土壌流出や地力消耗などの環境面の弊害が出てきます。PFPの農業指導者ジョナサンは「傾斜地農法の成果を示して住民に賢明な選択を」といいます。しかし、傾斜地農法によるアグロフォレストリの成果は、等高線状に植えた果樹の実りを待たなくてはなりません。カンダン村で住民に尋ねたところ、「希望もなく数十年を耐えたのだから、ゴールの見える数年を待つのはたやすい」という心強い答えが返ってきました。

また私たちは、「先祖伝来の土地」保証の支援をするNGOのTriComのリーダーTinapien氏（イスラム系マギンダナオ民族出身・写真）に会いました。活動評価セミナーが終わったところで、カンダン村をはじめ、TriComの支援で土地保証CADCを勝ちとった住民代表も一緒にしました。

「国連先住民族の権利宣言」案の採択がほとんど進まぬまま「先住民族の国際10年」が終了し、この1月から第2次の10年に入ります。フィリピンの「先住民族権利法」は7年が経過しました。単なる「貧しい人々」としてではなく、先祖伝来の土地に住みながら登記を知らず不法占拠者扱いされてきた人々を、その「先住権」の主張を認めて支えるNGOとして、会発足10年目の歩みを進めてまいりたいと思います。 （山崎）

